

# 日食観察の注意点

太陽の光は、非常に強力です！直接、目で見ると、「**日食網膜症**」あるいは「**日光網膜症**」とって、網膜（目の中の光をキャッチする膜）が障害を受け、目の痛み、めまい、発熱、視力低下などの症状がでます。ひどい場合は、**網膜細胞が死んでしまう状態や網膜に穴が開く場合があります**、かなりの**視力障害**を起こり、**直らない場合**もあります。

- 1 **安全性の保証された「日食グラス」等を使用し、決して肉眼では見てはいけません。**

※安全な観察方法については、いくつか紹介しますので、別紙を参考にしてください。

- 2 特に危ないのは、初めはまぶしさを感じても、しばらくすると慣れてきて、一見、無症状に感じる場合です。観察直後は、異常がなくても、その日の夜や数日後から症状が出る可能性もあります。網膜における光化学反応障害は徐々にするむので、注意が必要です。
- 3 子どもは、成人より眼の光透過性が高いので、より注意を要します。特に、幼児はまぶしさを訴えないことがあります。
- 4 感受性は個人差があります。他人が大丈夫でも、自分は異常を起こすことがありますので、注意してください。
- 5 とにかく観察中に少しでも異常を感じたら、観察を中止してください。また、障害が残った場合は、必ず、眼科医に受診してください。

【次のような観察の仕方は危険が伴います】

- 1) カメラを太陽に向けて撮影を行うことは、自分もカメラの横から直接太陽を見てしまう危険があります。初心者のカメラ撮影は、注意が必要です。
- 2) 雲がかかった場合、その時はまぶしくなくても、雲の動きにより、いつの間にか危険な光量に達しても気づかない場合があるので、危険です。
- 3) 日食が起こる時間帯は、通勤・通学の時間とかさなります。車の脇見運転や道路に車を寄せて観察しようとする人など、いろいろありますので、通常より交通事故などの危険性も高まります。したがって、学校では、時間帯を遅らせて登校するようにしましたが、それ以前の各家庭における観察の場合も、安全な場所を選んで観察することが大切です。

(参考: 日本天文協議会「2012 年金環日食日本委員会」ホームページより)

平成 24 年 5 月 15 日

保護者様

馬頭小学校長 大金典夫

### 金環日食に伴う登校時刻の変更と日食観察等の留意点について

保護者の皆様には、日頃より学校教育への御支援・御協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、既に御承知のとおり、来る 5 月 21 日（月）、日本において「日食」が観測されます。特に、関東地方を中心に「金環日食」となり、これが東京で観測されるのは、実に江戸時代以来 173 年ぶりと言われております。

この機会に、是非、子どもたちにも眼の障害等を起こさぬよう安全に注意して金環日食の観測をしてほしいと考えているところです。また、日食のピークが登校時間と重なるため、交通事故の発生の可能性も高いところから、登校時間も変更いたします。

つきましては、登校時刻と日食の観察について、下記のようにいたしますので、御協力をよろしくお願い申し上げます。

#### 記

#### 1 登校時刻の変更について

- 通常より、30 分遅らせませす。したがって、児童登校時刻は 8:40 です。
- スクールバスの時刻も、同様に通常より 30 分遅れとなります。  
※ 下校時刻は通常とおりです。

#### 2 日食の観察について

- 事前指導……当日までに、学校において観察の仕方と留意点について事前指導します。
- 当日の観察……当日の朝、自宅出発直前に「金環日食」のピークとなります。  
各家庭で、安全に留意して観察してください。
- 参考資料の配付……「日食観察の注意点」（裏面）と「日食の観察の仕方」（後日配布）についての資料を配布しますので、これを参考に、ご家庭でも十分に御指導をお願いいたします。